

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市第1グループ(旭町・日進町・渡田)	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	川崎市こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 旭町こども文化センター</p> <p>①年間延べ利用者数 33,373人 ②年間延べ利用団体数 1,362団体</p> <p>2 旭町小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 179人 ②年間延べ利用者数 11,905人</p> <p>3 宮前小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 404人 ②年間延べ利用者数 27,226人</p> <p>4 旭町こども文化センター児童ホール</p> <p>①登録者数 8人 ②年間延べ利用者数 1,263人</p> <p>1 日進町こども文化センター</p> <p>①年間延べ利用者数 18,932人 ②年間延べ利用団体数 750団体</p> <p>2 川崎小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 294人 ②年間延べ利用者数 19,449人</p> <p>3 京町小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 198人 ②年間延べ利用者数 11,257人</p> <p>1 渡田こども文化センター</p> <p>①年間延べ利用者数 19,581人 ②年間延べ利用団体数 284団体</p> <p>2 田島小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 163人 ②年間延べ利用者数 10,563人</p> <p>3 向小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 208人 ②年間延べ利用者数 14,447人</p>
収支実績	<p>単位:円</p> <p>1 収入 158,023,341</p> <p>指定管理料</p> <p>2 支出</p> <p>人件費 131,672,478</p> <p>事業費 9,980,283</p> <p>事務経費 12,777,331</p> <p>その他経費 141,500</p> <p>合計 154,571,592</p> <p>3 差引 3,451,749</p>
サービス向上の取組	地域における子育て支援や児童健全育成環境づくりのリーダーシップを取り、関係機関や地域団体との連携体制が一層強化されている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	5	10
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 同一法人が運営する市内施設合同で「マンカラ大会・子どもサミット」「BUNBUNステージ」「子どもサミット」「10周年記念フェスタ」を開催し広く交流した。9館合同では川崎市の特徴である多文化共生をテーマに「スマイルフェスタ2013」「人形劇」、グループ合同行事として「子育て支援」「野外活動」「スポーツ活動」「音楽活動」、そして25年度から「食育」を加えた5分野について「交流」と「体験」をテーマに実施した。乳幼児向け「こぶんらんど」高校クッキング部による「食育おでかけ講座」等地域や学校との協力を得て事業を展開し、さらに活動が活性化した。各館においては、中学生に向けたよりを学校を通じて配布したり、中学生・高校生ボランティアの育成を継続して行った結果、事業の企画・運営に携わり、小学生の手伝いや、自らフェスタでブースを担当するなど意欲を持った活動を展開した。また、家族参加型事業「パパぐらぶ」を年3回実施し地域での協力関係が育った。地域ボランティアの協力を得て、災害時に備えたサバイバル体験講座やロープワーク、空手体験、お茶会といった特技を生かした事業をとらえてふれあいが生まれた。わくわくプラザでも合同行事に取り組み交流を広げた。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか			
	効率的・効果的な支出	効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか	5	3	3
		サービスの水準を確保しているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
(評価の理由) 金銭管理・会計手続について適切に行われている。全20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、遊具、遮光・防災カーテン、飛散防止フィルム等の備品購入や施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者還元している。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	5	10
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 全市的にはかわさきFMでの放送や、各館では毎月のお便りを近隣の小学校や中学校及び関係機関(町会、区役所、社会福祉協議会)等へ配布し周知、ホームページにも掲載した。小学校、中学校、高等学校、スクールサポーター、PTA及び青少年指導員等と連携し、25年度からは地区学校警察連絡会に参加して、地域の青少年にかかわる情報の共有を図った。特別な支援を必要とする児童も気軽に参加できる音楽コンサートを継続的に開催し交流の機会となっている。子ども運営会議からの意見で行事を組み立て、意見が出しやすいよう設置場所や装飾を工夫した上で意見箱や意見交換ノートを設置し、寄せられた意見には丁寧に回答して運営に反映させた。運営協議会や学校、保育園、地域団体や行政機関との連携がさらに進み、施設の機能と資源を発揮した新たな事業が多く展開され地域の活性化につながった。特に区役所や教育文化会館との連携により、乳幼児向け事業が充実し地域の子育て支援に大きく貢献した。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正な職員配置を実施の上、特別な支援を必要とする児童については、適宜スタッフを追加で配置した。市が主催する研修や運営法人本部主催の研修、川崎区9館合同やグループごとの研修、館ごとの研修へ多数参加しスキルアップを図った。グループ研修ではこども支援室保育士を講師に乳幼児に向けた実技研修を行い、即実践につながった。また、中学校生徒指導担当教諭から「中学生対応」を学び、わくわくプラザでは主所属勤務交換研修を1か月の単位で実施し、新たな気付きや改善につながるよい機会となった。個人情報等適正に取扱い、漏えいや紛失の事実はない。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 施設の点検や安全整備をチェックシートを用いて日々行い、必要な修繕や保守を迅速に実施、また防音カーテンの設置等環境整備に努めた。事故発生時には学校と連携し、アドバイスをもとに固定遊具の遊び方を再考した。全職員普通救命講習を受講し、設置したAEDを非常時使用できるよう研修を実施した。防災時対応マニュアルに基づき、各学校と土曜日や長期休業日も含め緊急時対応について体制を共有し、津波を想定した学校との合同訓練を行う等防災体制を強化した。各施設、避難経路や危険度が高い窓を優先に飛散防止フィルムを設置し施設の安全性を高めた。さらに全施設に非常食・保存水を追加で配備、新たにアレルギー児対応保存食を備蓄する等災害への備</p>					

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

全20グループ53施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、経費の一元管理によって各種研修、記念事業の開催、ノウハウの共有等によってサービスを提供し着実に事業を推進している。

関係機関や地域団体、学校との連携で事業を積極的に展開し協力関係を深め地域の子育て支援、児童健全育成に大きく貢献している。また、中高生のボランティア育成にも継続的に取り組み活動を活性化している。利用者からの意見を大切にしてサービスの向上を図っている。

災害対策の強化として施設の環境を整備し、備蓄品を充実させたことは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフの資質向上を図るとともに、利用者にとって各施設がより地域に根付いた居心地の良い場所となるよう努めること。